

「平成 23 年度普及に移す成果」

ベニバナインゲン「常陸大黒」に発生する 土壌病害の総合防除体系

みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター農業研究所

ベニバナインゲン「常陸大黒」には、綿腐病や茎根腐病などの土壌病害が発生します。これらの土壌病害に対して、各種の防除技術を組み合わせた総合防除体系を確立しました。

「常陸大黒」に発生する土壌病害

「常陸大黒」栽培では、綿腐病、茎根腐病、リゾクトニア根腐病、白絹病の4種類の土壌病害が発生します。これらの病原菌は、土壤中に普遍的に存在します。本県の栽培地は標高が低く、栽培期間中の気温が高いので、これら土壌病害の発生が多く、防除が必要です。



図1 最も被害の著しい綿腐病
(左：茎の病徴、右：甚発生ほ場)

土壌病害の総合防除体系



図2 輪作作物（ヤマノイモ：左）と紙ポット育苗（右）

- ①病原菌のつきにくい「ヤマノイモ」や「ヘアリーベッチ」を導入して輪作を行います。
- ②畦は10cm以上の高畦とし、地温抑制マルチ（白黒マルチ）を使用します。
- ③紙ポット（花菜ポット24；OS社製）で育苗し、定植時に苗を紙ポットごと移植します。
- ④紙ポット苗の活着促進、根張りを良くするため、垂りん酸肥料（粒状1号：3g/株；OK社製）を株元施用します。

総合防除体系の実証

「常陸大黒」に発生する土壌病害に対して、輪作、高畦栽培、地温抑制マルチ利用、紙ポット苗移植、垂りん酸肥料の施用を組み合わせた総合防除体系は、ほとんどの株が枯死してしまうような甚発生条件下でも被害を50～100%軽減することができます。

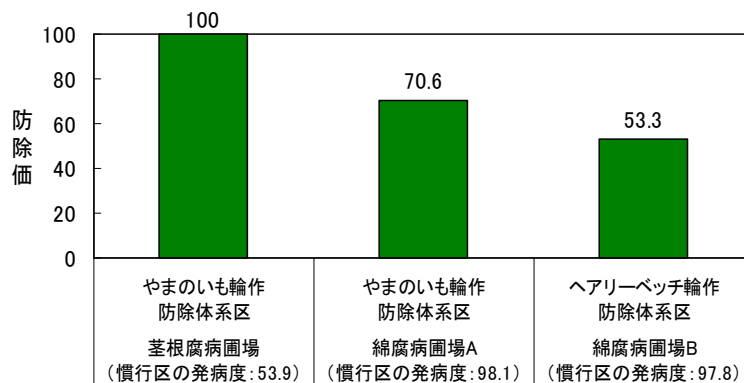


図3 茎腐病及び綿腐病に対する総合防除体系の効果（平成22年、常陸太田市、常陸大宮市）